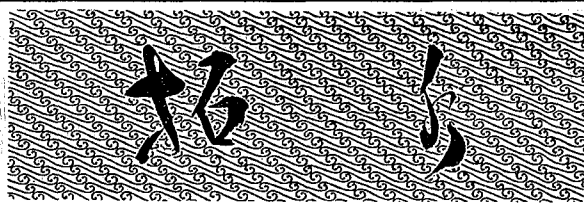


合成洗剤を追放しよう!!

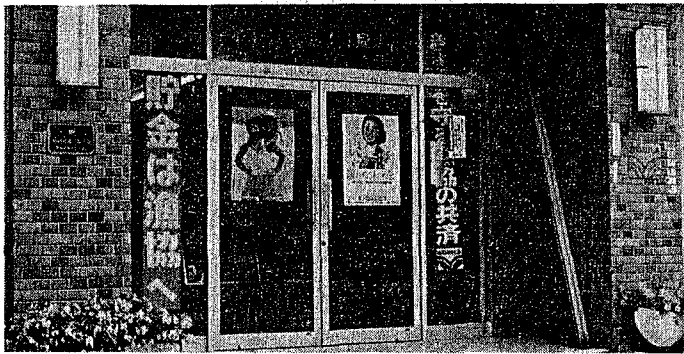
生命のふるさと 海を守るために



4月号 No.319 一部 10円

(会員の購読料は指導事業経費より支払われています)

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県水産改良普及協会 神戸市兵庫区中之島2の2の1 TEL 681-6954~7 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会



「貯金は漁協へ」(津唐山港漁協)

月一回週休二日制

8月第2土曜日から実施へ

信用事業

金庫機関が同時に実施する。必要なら準備を進めるものとする。

この決定により全漁連は農林中央金庫、農協系と同一歩調をとり、二、月二十四日、関係金庫団体共同で実施宣言を発表した。

本県漁連においても全漁連組織決定を受け、月一回週休二日制を実施することとなった。

この決定により全漁連は農林中央金庫、農協系と同一歩調をとり、二、月二十四日、関係金庫団体共同で実施宣言を発表した。

本県漁連においても全漁連組織決定を受け、月一回週休二日制を実施することとなった。



出漁を待つ漁船群

水協法一部改正法案

衆院を通過、参院へ

「水産業協同組合法の一部を改正する法律案」は三月二十三日の衆院農林水産委員会が附帯決議をつけて全会一致で可決され、翌二十四日の衆院本会議を通過。ただちに参院へ送られた。参院農水委員の審議は四月十二日ごろ始まる予定とされている。

衆院農水委員の「水産業協同組合法の一部を改正する法律案に対する附帯決議」は次のとおり。

一、都道府県段階の共済水産業協同組合連合会の設立については、本任意共済制度の事業規模等にかんがみ、慎重に対処すること。

二、任意共済事業の推進に当たっては、農協共済等他種共済との行きすぎた競合が生ずるおそれがあることにかん

がみ、相互に節度ある運営が行われるよう指導すること。

三、本任意共済制度、漁船損害等補償制度及び漁業災害補償制度の一元化問題については、漁業者の便益を考慮し、今後とも検討を続けること。

四、漁協等の適切な運営を確保するため、監査事業実施体制を拡充、強化するよう指導すること。

五、漁協信用事業の在り方については、そのせい弱性及び他種金融機関の動向等にかんがみ、その特性、専門性を発揮し得る体制を早くから、相互に節度ある運営が行われるよう指導すること。

六、漁協経営対策については、漁協経営の実態等を踏まえ合併の促進等適切に対処するよう努めること。

七、漁協等職員給与等労働条件の改善につき、適切に指導すること。

八、漁協等の適切な運営を確保するため、監査事業実施体制を拡充、強化するよう指導すること。

九、漁協等の適切な運営を確保するため、監査事業実施体制を拡充、強化するよう指導すること。

また、沿設法改正案は、同日の衆院本会議で可決され、同日の参院農水委員で可決され、翌二十三日の参院本会議で可決成立した。

また、沿設法改正案は、同日の衆院本会議で可決され、同日の参院農水委員で可決され、翌二十三日の参院本会議で可決成立した。

'83ひょうご 花のフェスティバル

花と緑がいつぱい 播磨路

花が咲きます。緑が薫ります。そして人々の笑顔が咲きます。美しい新緑の季節、豊かな自然に恵まれた播磨路に家族ぐるみでいらつしやいませんか。

播磨中央公園
4・29 オープニングコンサート 高石と

もやとナターシャ・ヤン
5・1 ロックインタきの 上田正樹・増田俊郎
5・3 花の笑待席
5・5 わんぱくカーニバル
このほか、ゲートボール大会、大角チャンピオン、日本の風まつり、どじょう流しなどユニークな催しがいっぱい。

フラワーセンター
チェリリップまつり
ペゴニアまつり、植木まつりなど春から初夏にかけての花と緑の祭典がみえる。

このほか、くさぐさコーナーなど是非親子お揃いでお出かけください。

グリーンピア三木
緑の風をまわってサン・グリーン・マラソン快足。また大テニス大会も開催

西脇陣馬公苑
4・29/5・5
花馬車、婦人会、ガザ、ポニーに乗ろう、うさぎと遊ぶ、東はりま若少年館
5・3 ファミリーやんやん・ブルー、ファミリークラフト、ファミリーディスプレイ大会

アカウニの 種苗生産試験

水試ノート
22

本県の瀬戸内海に分布するウニ類で、産業的な有用種といえるのは、アカウニ、ムラサキウニ、パフウニがあげられる。このうち、商品性が高く、かつ、成長も比較的早いアカウニをとりあげ、昭和五六年二月から翌年四月まで、その種苗生産試験を行った。

今回の試験の特徴は、在来法である通常の流水式飼育では、冬期の水温保持に相当量の燃料が必要とされるので、省エネを兼ねて飼育水の殆んどを循環式で加温し、種苗生産の可能性を検討したものである。

以下に、その概要を紹介した。

親ウニと採卵方法
アカウニの産卵期は、本県内海側では一〇〜二月と推定される。親ウニは、

ニは洲本市山良地先で、〇月に採取したものを、水試の水槽でカジメを与えてしばらく飼育した。

採卵と採精の方法は、先づウニの下側にある口器を取り除き、内容物を洗浄する。次に一個体ずつウニの上側にある生殖孔を下にして、海水を入れたビーカーに浸し、これに一多量化カリ溶液を滴下すると、成熟個体は刺激されて放卵又は放精するので、この時に雌雄が判別できる。

このようにして採取した精子を、卵のビーカーに入れて人工受精を行なう。受精後はその日のうちに四回洗卵し、大きな水槽に移して静置した。

受精卵は直ぐ卵分割（写真1）を始める。水温が一八〜一九℃では二四時間以内でふ化し、この時期の幼生（写真2）となった。なお、卵数は一個

平均六〇〇〜一、〇〇〇万粒で、卵径は約〇・一mmであった。

ふ化幼生の飼育
ふ化した幼生は、別の水槽（〇・五トン）に五〇万個体ずつ收容し、すでに培養しておいた単胞の浮遊性藻（キートセルラス・グラスリス）を与えて、ブルテウス幼生一期から三期（写真3〜7）まで飼育した。

この所要日数は、ふ化後約二〇日間を要し、ふ化幼生からの歩留は平均七〜八%であった。歩留の多少は、水槽の明暗による差はなかったが、飼育水温によって差がみられ、一八〜二〇℃の水温が最も好結果を得た。

ブルテウス幼生期までは浮遊生活を送り、飼育方法は止水式でよいが、三期の後期（写真7）からは、

採苗と稚ウニの飼育
採苗方法は、あらかじめ流水管理によって、付着性藻をつけておいた採苗板（0.3×0.4m塩ビ板）を流水式の飼育水槽に設置し、そこへ変態直前の

付着後には三日以内で認められ、付着後は稚ウニ（写真8）となる。付着確認後は流水量と送気量を強め、餌となる付着性藻の増殖を図りながら飼育を続けた。

収容幼生の採苗率は、平均四三%（二二〜五二%）で、採苗板の收容数によつて差がみられた。

稚ウニ以降では一月の低水温期に入るため、天然水温が上昇し始める三月中旬まで飼育水の加温が必要となり、二〜三℃

付着後における稚ウニの餌料は、殆んど付着性藻のみであったが、四月七、〇〇〇個の稚ウニが生産できる見通しを得た。しかし、この成績は付着性藻の量によつて左右されるようであり、付着面積、水温と光線量、注水量がその要因といえる。

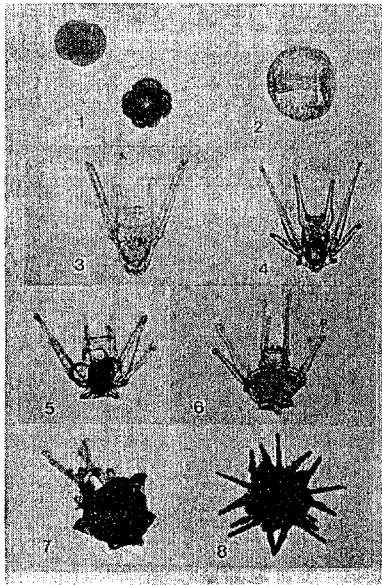
殻径が八〜九mm位から海産による飼育が可能となるが、二〇〜三〇mmサイズまで中間育成のうえ放流するのが適当と思われる。また、成長は満二年で漁獲サイズに達するものと考えられる。（栽培漁業センター・丹下）

今回の試験結果では、水槽の底面積が当り約七、〇〇〇個の稚ウニが生産できる見通しを得た。しかし、この成績は付着性藻の量によつて左右されるようであり、付着面積、水温と光線量、注水量がその要因といえる。

殻径が八〜九mm位から海産による飼育が可能となるが、二〇〜三〇mmサイズまで中間育成のうえ放流するのが適当と思われる。また、成長は満二年で漁獲サイズに達するものと考えられる。（栽培漁業センター・丹下）

今回の試験結果では、水槽の底面積が当り約七、〇〇〇個の稚ウニが生産できる見通しを得た。しかし、この成績は付着性藻の量によつて左右されるようであり、付着面積、水温と光線量、注水量がその要因といえる。

殻径が八〜九mm位から海産による飼育が可能となるが、二〇〜三〇mmサイズまで中間育成のうえ放流するのが適当と思われる。また、成長は満二年で漁獲サイズに達するものと考えられる。（栽培漁業センター・丹下）



漁海況情報 (58年3月)

兵庫県立水産試験場

海況 58年2月中下旬に氷渡りした今冬の寒波により、播磨灘、大阪湾の水温は急速に低下し、3月上旬にはほぼ例年並（8.0〜8.5℃）となった。3月に入っても小規模の寒波が周期的に通過したため、今後の水温上昇はほぼ例年並になる模様である。

また、塩分は昨年10月以降、ほとんど例年値（31.5〜32.0‰）と大差のない推移を示している。

一方、栄養塩類（主にチッソ、リン）は58年1月中旬下旬にはやや例年値に近い値を示したものの、小雨期であるとともに低水温期に当たると、予測したほど河川水の流

入量は増加しなかった。このため、陸からの栄養塩類の供給は断続的で短時間の栄養塩類の増加はみられ、直ちに植物プランクトンに消費されるという循環を繰り返しており、平均すると今冬もまた前年に引きつづき栄養塩類は低い水準で終始して来たといえる。

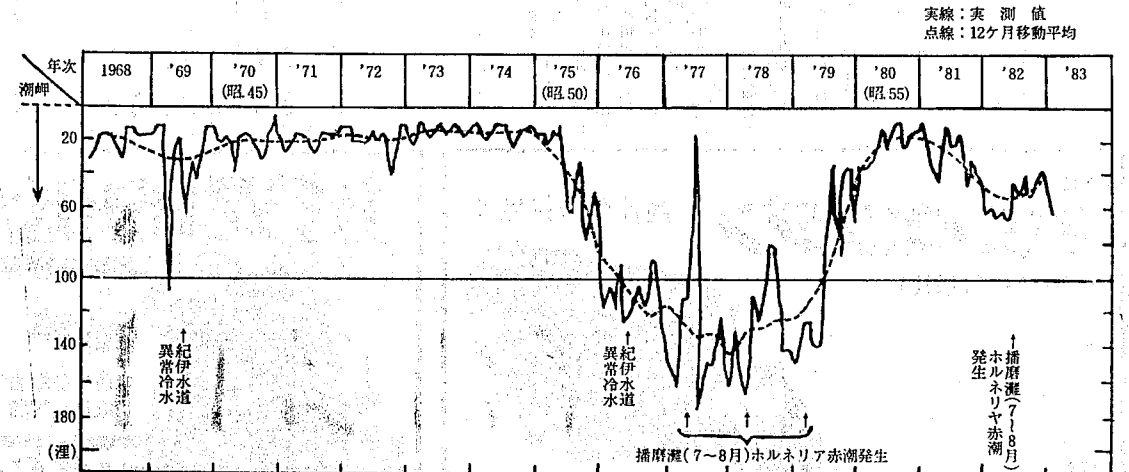
試験の結果と展望
付着後における稚ウニの餌料は、殆んど付着性藻のみであったが、四月七、〇〇〇個の稚ウニが生産できる見通しを得た。しかし、この成績は付着性藻の量によつて左右されるようであり、付着面積、水温と光線量、注水量がその要因といえる。

殻径が八〜九mm位から海産による飼育が可能となるが、二〇〜三〇mmサイズまで中間育成のうえ放流するのが適当と思われる。また、成長は満二年で漁獲サイズに達するものと考えられる。（栽培漁業センター・丹下）

今回の試験結果では、水槽の底面積が当り約七、〇〇〇個の稚ウニが生産できる見通しを得た。しかし、この成績は付着性藻の量によつて左右されるようであり、付着面積、水温と光線量、注水量がその要因といえる。

殻径が八〜九mm位から海産による飼育が可能となるが、二〇〜三〇mmサイズまで中間育成のうえ放流するのが適当と思われる。また、成長は満二年で漁獲サイズに達するものと考えられる。（栽培漁業センター・丹下）

潮岬における黒潮流軸の離岸距離の経年推移



増加するものと予測される。イカナゴ：本情報の57年12月、58年2月時点で予測したように、3月中旬の船曳網漁は不漁である。魚体も大小のバラツキが大

しかし、4月以降は若干大豆島以西発生帯が予測よりも多い日に来遊する

るので、今後は漁期の延長と短時間の漁獲増加が望まれるようである。ここ数年は瀬戸内海のみならず隣接の太平洋南東部の黒潮の流動は変化が激しい（図参照）。内海での栄養塩類の低下や赤潮の発生には種々の要因が交絡しているが、この

も十分の留意が必要である。未詳ながら、57年度の漁海況情報は今回で終りますが、種々の情報を提供下さった関係漁業者並びに各研究機関の方々に改めて厚く御礼申し上げます。

(水試 資源部)

※南海海区水研資料による(58年3月)

